令和元年度　社会福祉法人友好福祉会　事業報告

理事長　長岡　均

近年、日本各地で毎年のように広範囲で、かつ大規模な自然災害が起きています。昨年秋には山梨県の隣接である長野県で千曲川が氾濫しました。千曲川流域では、各所で過去に何度も氾濫の歴史があるそうです。かつてプライベートで訪れた所にも被災の記録があり「こんな高さまで浸水？」と目を疑ったほどです。それが再度、現実になってしまいました。

麦の家も他人事ではありません。立地している場所は土石災害危険区域にあります。これまで災害がなかったからこれからも起こらないということはありません。そこで１０月の創立３３周年記念式典では皆様に施設の改築を表明させて頂きました。改築先は同じ敷地内ではありますが、その場所は危険区域から外れています。

麦の家は開設後３３年半が経過して老朽化しつつありますが、改築のもう一つの大きな目的は居室の個室化です。現在は４人部屋で皆様にご不便をおかけしていますし、毎年、感染症流行時には感染予防が困難な状況になります。

改築予定は令和７年４月を目標にしていますが、令和２年、年明けの新型コロナウイルスの発生により改めて改築の必要性を強く感じた所です。

こむぎ保育園でも大きな影響が出ました。秋の台風により高尾山の卒園遠足が中止になりました。卒園式も新型コロナウイルスにより時間短縮、規模縮小により執り行いました。世界的緊急事態を初めて経験し誰もが「安全第一」と共通認識したように思います。

令和元年度が華やかに幕開けしましたが、年度末は社会全体で耐える毎日となってしまいました。友好福祉会の各事業は利用者、家族がより良い毎日を送る事が出来るように支援することです。今は耐え、いつの日か明るく生活ができるよう支援を継続していきます。